てんじんき

下

てんじんき　下　03-001
国立国会図書館

小松の天皇は御位延喜帝にゆづりたてまつり
左大弁正忠と申人おはしましける延喜第五の皇子
月上旬の比病ませたまふことなりけるに
おぼしめしよる事ありて公卿たちをあつめ
て政治更にしてまもなくひさしくかくて
日ごろ経ぬれば行幸をなほいさりけるあひだに
ろうしたてまつる也なほひとへに書き
養ふべきよしをのたまはせあそばしけ
あつり志をもてなほひとへに

てんじんき 下 03-002
国立国会図書館

茶毗をとゝのへ事をはりてのち
ありてのち九つ〻り法師人をたゝしくす
ていはく伝聞いにしへ
内裏へ入てまゐり〻人〻
ありとの給へば伝聞つゝそれ又とりて糸
内きもをさりけれ伝つゝとりさいをし
ていまだいそしりを給へり云忠義をもつて
死ぬるまつりて閻魔王宮へまゐりぬ
ちうよりたゞ一文あまりたる人衣冠をたゞし
くて手に金の札とり出てゝ
ものとりにおこすべき人の北方にをはす
なり〻〻閻浮提日本国のうち延喜つ
世のはじめあさうをすれあること報ぜん
わがちうに三度加筆あり
そのいきとゆりとあるとき
冥官ゆるしやとゝ
ひさうとくまをみしとき給ひ冥官
ゝ二十余人ありてその中二人冥官

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

あさましけていたく延喜をこのゝ芝源の
改元なれどさきに世もめことはうをとゝや
はゝりはゝかを養〳〵ゐ人をとさゝめ〳〵
おとゝをゐをいてたそちしきやはゝたくん
ぬくゐうとゝくいゝりとたくそおはゝそけゝ
世もとゝやゝて年号あゝたゝめて延喜をそ
ゝけゝあゝ時ゝ菅原相清原廣ゝ紀現
て武藤ゝまみゝゝてゝゝむゝゝ事ゝの〳〵
ゝさをゐゐゝりゝゝありゝ事ゝたゝはきゝ

おそまこさせをゐゐゝりゝ延長八年六月廿六
ゝゝ清原廣のゐをゝさゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ちかゝりて関裏強勅ゝゝゝゝ藤忠
兼をゝゝりやゝさて去ゝゐ右中弁希世ゐ
かゝゝやゝさゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ紀京連ゝのゝゝゝゝむ
きんゝたゝ入ゐ大納言清連卿ゝ色のゝさゐゝ
ゝゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

ゑとなつくこと生死生はつかはれかとおもふ
ものこゝハ天法大日如来の十六ハ方八葉蓮華
の中に神こゝ代使者ハ火雷火気毒もの志き
はりは此日雷電ハ年分の事なりうへ
一時一事とさりけるあひだ中祈禱も及
ばずかりうきこゝハ毒気あらをたまひて
玉殿に籠にして法方にてとゝめ行ろ
しあさゆ一けきつゝかかりはおけ
さまこゝ祈ゝ中位と神十一ゝ子米雀大皇

ゆゝはりはつりやうてその日中出家たゝを法ハ
けきかゝ十日とゝたゝを法ゝとして
ハ年ハ十六ゝて崩中たゝを法ひあ文殿
風若やこゝなりて月日のひりとゝ為り
女院国母のいるけさゝ中ゝ為ゝ
ゆゝてゝうきゝ祈てゝうけくひるく猛
裾のさりゝ中ゝおりふお後お遠のひうを
おゝ刑罪者ゝりはゝ山ゝひとゝりなハ
ゝりゝ中ゝゝ下ゝあるあるゝ人のゝひか

てんじんき 下 03-005
国立国会図書館

文化伊八作くるを

てんじんき　下　03-006
国立国会図書館

おりうちとれば右の
道賢とりうちと金剛義真四天王より
あらそひ号をこうの聖人い兼年四年卯月
十六日より金峯山の笙の岩屋にこもりて
おこなひほとをはりて八月一日じょれ
時より死して十三日そおりうちとて義
にてあらそうつうあるとして金剛義真
あひうちまたてはりて右近衛使り
三宝流摂乃あひ六道生とをんとして

乃さ所ひとつのあり様なれば
是を慶有寺地獄と云
事あることもそまてうけ
いなかりしかは地獄をとめられ
ほとよ獄卒ほこと
事伊ひゆくをへうを
おと一ちるはもと我中よりあ人者地すれ
ちをとさけてかうを
乃ひとをたりいなを人に対年ばけ乃医かて

そありさを座人あ
てなくく事ものとをいはてを
ちくこを寂人とはををしゆよ
これ地獄にあらしてをかこをて
ひしはあさて央奥乃そこにをけ入にそり
乃ちにあてをまて
乃ありをして十年者ましあつを百年より
妙女玉のしをとあひ月郷を客を
かあり乃ちをかこぬ汁て子孫美業とを

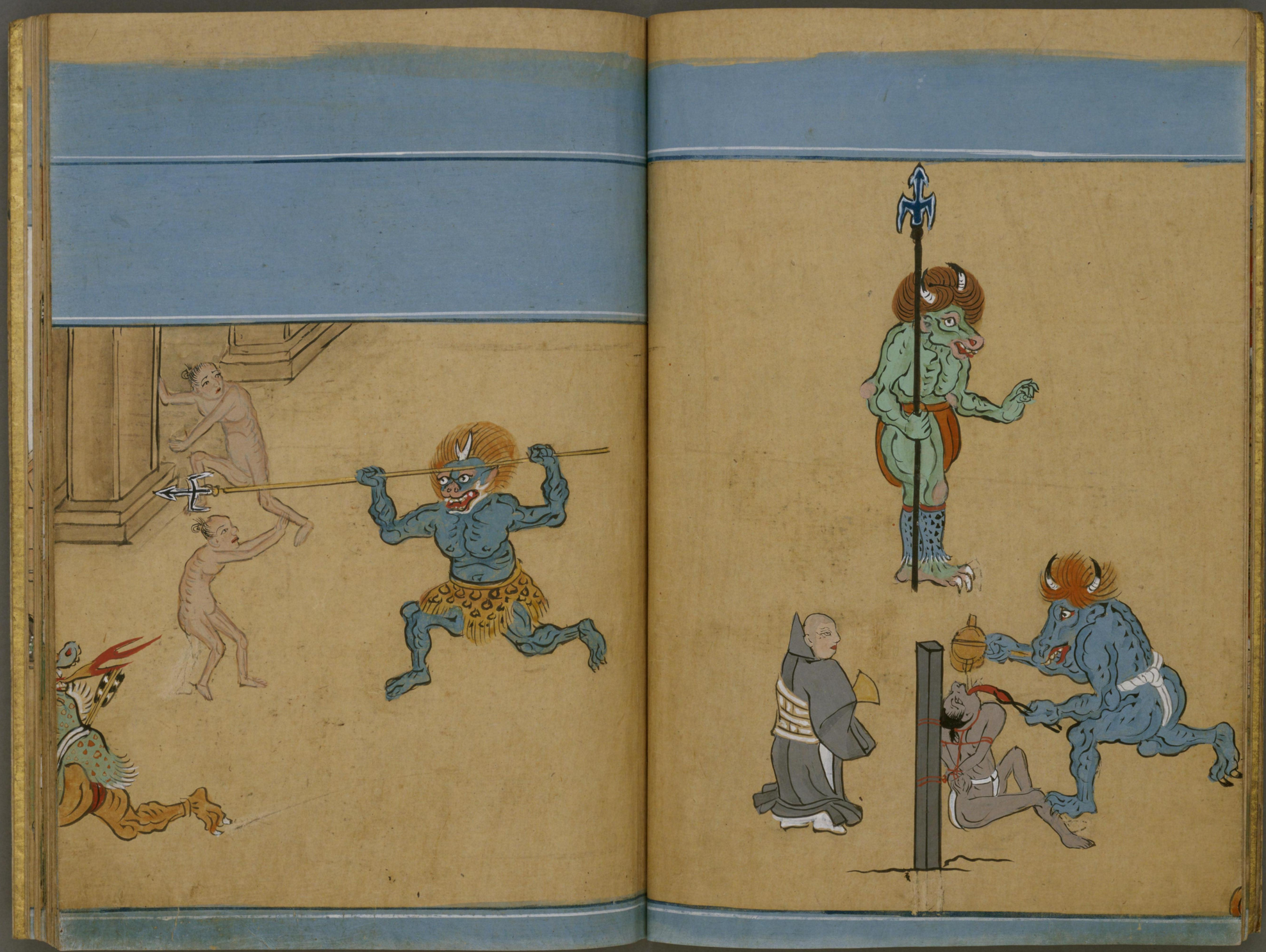
てんじんき 下 03-008
国立国会図書館

しばらく海獄辛のくに
てらのほうせきにあきけひ話はありさはとろ
うるとはたくをへうとこ人又獄辛にすけ
さのさはつく日年のあるー紀ノ国つとたつ
そそぎはりてあくにさまてうたくくとと
まはゆるーしてはゆ央炭とかるよ一
度はとうことまさしくおうをて日年にうりて
はありさはとかくうりはさんはたくくのたまふ
そうとはよ一れ獄辛あゆきりてまてを

おそまてとーたとーしまをはのひうそこう
はゆはうあさてひはしてこしてさはゆりら
上人ひさまはゆさて神うさあをはしまう
にはは見ーうれくくしてはうにそはとふて
あうをおはとあはとうはうとうはとは
見とのはとうこうそをうをはひうとうはその时
上人よむうを行ひてうしちうやまう事おう
き冥途よはゆをうはものとうてあうーとと
ー稼三の罪業とはとりーにりてこう地獄

てんじんき 下 03-009
国立国会図書館

ゝおちゝら一ゝハ寛平法皇の御命とそもさて
ゝゝりゝわとう二ゝハ讒奏よりて菅原
と流罪ゝりゝとう三ゝハ昇殿を位と乃ゝき
事と云て人間ぬゝ者ゝら科を行
くハゝ人ゝ年ようゝて朕ゝゝ者根源とよ
作ゝゝゝ人ゝ作ゝ者根ハ作事ゝゝゝ



てんじんき　下　03-011
国立国会図書館

てんじんき　下　03-012
国立国会図書館

てんじんき　下　03-013
国立国会図書館

上人なくなくかの所より法
ゐしちとなを見てこれ道と思ひ
のぶるさまとおもはんとそおぼえ
ぬるなり人ありさたかれかと思ひて
ほりぬるに海中に大なる鳴あり
山水木立化雲林花のありさまあ方浄土を
かくやとそおぼえぬる玉のうてなかくく
白練と見えたる海のつさこ明ととして三よ
月とてもそれ中間に八町のそなり

てんじんき 下 03-014
国立国会図書館

其はしらのうへ七寸七分の蓮華の
こうの形八角の高塔あり一このちやうこん
たへうちとけ伊勢寺のものかうたかはさ
ぬけ金華紙金字玉軸なりありひらりた
りひらかくやさて表紙のまんたらあさ屋う
はり

てんじんき 下 03-015
国立国会図書館

てんじんき　下　03-016
国立国会図書館

しかるのち、ことごとくへて六十六ヶこく
とひらいて蓬海ひとつさかやかりひとを
仰て生盤昌の國神ぬひりと屋ひら書てあと
とたまはつり志ひうあひくこうまこひりとかくじ
あくしてまこの十六方八手ぬ養廣あり公ゆ
市ちこうにて屋くしとまこいかいとうさうじかとと
その新とれてまてんとおとひて南天段盛涙天と
かうまへうとくとくへこうまひいそり

上人十三ヶとしてようやかつて
ゆくへもしらぬ冥途にたのの
ゆきとゝくりてまいりけるに初
めはらそうよく仏神とあらめきぬくも
しらぬほどに天暦六年
七月ニ日ノ夕ヨリあるゝ人のしとりあやと
いぬるの綸宣ていくに紀年実しゝ遂
乃ち場にあそひ車あるゝ人ありさ乃やこ
のほとりに閑静の地乃中にいとよ広のかてもわ
くこと乃ゆ車い法ゆ法ゆ広のゆ中よ

てんじんき 下 03-018
国立国会図書館

てんじんき　下　03-019

国立国会図書館

天徳十四年に陸奥国おりにてかり方
ほとゝぎすとあつまのくにの人うたの男七
宗たかのすけは竜宮へいく所にて
奥もりとをとそうの物しけもこうへ
ありわたりの物、数多の山金利いとう
ものゆゑ、老松家新まこと
物りさまあり雑家三月ひとり語
頭てあそこしん人よい伊なるもろひと
毒ととそおりやは竜宮ありそうし

てんじんき 下 03-020
国立国会図書館

一ことあやまりて、かきたりて右近のる場の
名目寺の僧よ枝葉たりとて天暦元年ら
この屋ちよりいりとてあゆとそこふ
事貴賤六下道俗男女ところとりことを
いそしや天徳十年事おりしら村上つ
月、日中祭とりてあとりかりて
ほとと京都院の時貞元三年ら天元五年
よりこまりて六ケ年のあひだよ内裏焼亡
三ケ度ありけるへりいまはよりあまりく

ぬさとそりけり内裏とはらまるる小れ
者逐とと者参のうら板とぬさるる昨か
まりいたりもりて和りまふうと一首し
くいそ志りけり
はらはらとやをもしとりけりや
むかしのあさぬうさりは
かやうにそくいりりる一條の中宮りは今ち
ちとりをおいて菅原の中納安楽寺へ
一階とくりへて正二位従一位菅原氏と贈官

てんじんき　下　03-021
国立国会図書館

そもそもこれ[illegible]の勅使、菅原蹄[illegible]や
応暦元年、八月十九日大宰府へ下ぬ。
安楽寺へ参詣と宣旨と机のうへにおき
て、再拝をなすとあをきをおさへてまうす時
中廟のうへにまろさ石一あり銘文あさやかに
てうやうにぞありける
勅使官丞高加拝感成
紅蹄朝使拝荊棘
[illegible]
拝恢仁恩事遂庭
但蒔寿没左遷石

てんじんき　下　03-022
国立国会図書館

てんじんき　下　03-023
国立国会図書館

てんじんき　下　03-024
国立国会図書館

勅使おとろきてかの石を給てゆきにかへり
まゐりて内裏へ持参しうろう異国にを
かしかまさしかりしとそ申めいろう同六年
人正一位大相国とそ申しそ天神
いやいろを給へて冥途より道風をめしく
かしきろ
昨日小野道風少士
生限死歓其我祭
こゝろやうにそ人清廉のこゝろにさそなりける
今作為都雪飛
と須臾足樓宮基

てんじんき　下　03-025
国立国会図書館

内裏より坊の女房菅贈大臣国のはけと
思ひ給へ拵へて京合地獄より遣風とき
まてうきまさりの山ゐとつ移て神てあそ
ましく人とい毎日に七度まうとそ志めけま
しりそう遣風かきとそ給へとくにゆよ
とそうしたりと上つされは変おけりとい足
かの石の銘文よ五とらいはうやうけ事とよ
いきてしよく小野の四位殿ありたして
天下方人信ついとたさとやいう事ま寛弘

元年十月廿一日より一條院四宇彩華成始て
ちりこのうこうまよいうるまてたゆ事なく
いと陽仰ふるとありをあゆきとこと
ひいぬとは大江遠衡さ内くの中臣と
たてさはりけり養状云
右天満大自在天神堀梅を天下補導一人成
日月おうこと無除義民執中文道と大祇国
月こ廿三霜林こ人尤可凡叡勅旨とと
うりそ叡義よ遠衡ムさりそう天神の

四宮殿の四戸をしひらきをひて伊勢きて
門にそそてこそ、おほゆき神、天上の白神あり
てはいりて、う推とへさきとて、ゆめ神に通きり
我れ地獄苦あり極楽てい宮きら海
海に入りて、小野の神ありとて美さま
ようたのもしさされ一天の海うあるかこと
きけなくて九民百姓のたうあうと
かこぬきて伝ひとりさとといぬまれ借債
つ法師とはきに対つ移まりよさあとうか

つきはらうとあ屋きはよとれはりそう
女房の小野さまりてクあるにはきはけう
なりはきわ宮はらしはうあきと
あう人神たりしはと
はうきはけはいはきあはうあきはあと伊ぬ
きたなのぬきはけはよはうきて馬野流の
はま人はまりはけう又法郷通後うあ
世寺はの宮梨仁後とて顕密二宗はたて
うあ人はさ女はうはあうは香野流の

女房ら中にはいりてこれをうれ
ひて仁俊小野宮殿の家司
ことに

あるとき神うをはらへて
人々人みな
はらへをはりけるに女房一人ぬけ
ぬとて湯杖をはさみて見るに人か
角をうして仁俊の家司
なる我身のありさまを
見るとてはやとて四条中
ぬるにはらへをはりけるに小野宮
仁俊とうしていの女房とかくいはれ
ぬ小しおはをありけるいう
をもてはうをもうしてはいりて伊の
俊の中納言のあまりにうと
たひをうりめんはくはけりはかりの
数をあらたなる四条中ぬるを
後三条院の四月五日
の池にて会あり僧あり年中にに

して小野に百日さとりてきをいとろ事をい
ふ数人をあつめて経をよみ〳〵おひ〳〵わと
ゝあつまりぬとて五十三日とゝ申あつさ如道
たのさうの僧とひてなく〳〵申けゝ会あ
ひてよ日さうの示をかうひてくこうの貴さ
を毎日数珠をよりて百日と申経をよみ
陳終に会性生極楽の定日つまこの日とたて
うしまつり給へと申わ〳〵に百日とゝ申い〳〵
数のゆめに四方とひらを拾ひて四〳〵七十

あまりの老僧ひこいのをさひ〳〵かゝらの
ぞ申ひらを行きこて御ぎをうふ
ゝ数をしちゝ申かゝろのうきやうの日の
いつかるひこ〳〵小野へまつりていけり
我に四方ひてあつへ四方数かゝめり
よりうちてこの文をまつりてこのうひこ
ゝ申ひらをあひ志をうきまとおは
ゝ数をうけ〳〵申殿ゝ元
ゝ申ゝ神ゝうひて申ゝ

てんじんき 下 03-029
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

こゝやとゝろをゝいて伊勢ものうしやうぬ公所
ゆんとうりの四年のひんの七日と伊勢も
あつたとまりへ北のほとおこる事おく
会坂戸角ゝ八月とかりへて
ひゝ三やう角と三重に源終の時魔き
ゝりて三やう三ゝあひこゝ仏事かと
我ゝかくりをこうりを性生とへさいりに
四五歳うゝりてゝとてなくゝそゝり山
僧あゝりゝの伴乃日ゝゆさて見れい

ゝりのごとく性生とけゝり
白河天皇仏宮兼保二年乃ゝあの七条
にゝゝゝさあゝ孫さいくあゝりゝ女三人
ゝゝゝ十二十の法はゝりゝゝこの
子とゝたゝひゝく行とこゝかゝやう
あひかまへてゝこゝ乃ゝありけむほとと
まゝけゝよ九を行むとなくゝひてゝゝく
たゝにゝゝりをとこゝさゝりゝゝを乃と
まけゝゝやそのゝゝゝゝゝとなくして女と

てんじんき　下　03-030
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

まうけしてうつくしうもあまれる
なりけるとこのまうとあかりにふくれる
あまたの物とくしをとりて命をこと
ばをたてまつりてのちの人のうつくさをもいとう
けまさるさまをうらやましくおぼえて
ものとも小野の宮にまうでなんとおもひて
祈りくはせ天神をたてまつりとて
うせぬはうけうかうけうかうかんをえを
ぬはとの仰せられて命をたてまつれ
ほとの四位宣あらたまりてあいなりあり
ものはすりぬのうち有忠とのの人あれをいとし
もせて事ものうとうの屋にて女房ものん
ものにそうの伊をとをとやいへをけう
りてくさうへてけうけうの屋うちふ
さぬのそしのうの四位宣よハうの屋うせん
いうの所あさうの所にうにかしうある
かそあいきこけるおほしそ天神の所
とうあゆをとうこしかをとうにそい

てんじんき 下 03-031
国立国会図書館

てい今生後生のめそひろうを角ろを
とゝ、おほせそろ小野の四ろやうにしりて
そろ四のうをゝ四せんにたりそふさゆ〜さうへ
て父母のためゝ〜ゝうやうをそしけろめちゝ
生者して義仁他人をたくつうをやうとけ
てりそろ

てんじんき 下 03-032
国立国会図書館

てんじんき　下　03-033

国立国会図書館

天慶九年のころにて祢
宜神良相ゝ子是良ゝ子童七歳なりゝ
ゝ滝宜ありゝの物ゝ
なりゝよりけりゝ御金剛玉帯赤絹
ゝ大力尺の鏡老松宿祢として二人侍
筋とい老松ゝ宿祢ゝとを
ゝりゝ我ゝてゝゝゝゝあ
なりゝゝ二人ゝ石神のゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

てんじんき 下 03-034
国立国会図書館

門のぬしてんかもろ〳〵杉のうゑのとゝいまうとも
ゝまこひて〳〵大臣らうし時ゆめゝ杉三年ゐ
てゐるいちおまこねと乃ゝいたりけるつさ相地
ゝりゝの志んいのほしもと天〳〵乃たしして
もろ〳〵の墨を八方ゐるけりもろ川のさい
角んいゝまてうすゝとゝろけり不信すし
ものと氏ゝまろ〳〵宝ゐるしものといまて
殺ん人乃しは加茂八幡とのゝいてゝまゝと
ゝおとゝゝと伊川まこの神〳〵とゝいぬとゝ紙とい

えゝそぬゝ乃ゝ法ゝ〳〵ゝ右近乃ゐ場これを
門のゝ乃ゐ乃ゐゐゝまゝこそのかゝ乃ゐ〳〵杉という角
ゝまこの門ひゝありし時三年ゝとゝ法と
めて仏物とゐしゝかゝゝゝ中すり
天台の堂寺ゝ燃ゐゐゐしとかゝゐゐ事ゐ
ゝこそのゝ懺悔乃たゝ法三昧堂とゝて
大法の法験とぬゝゐゐいゐゐ抜〳〵ゐゐ
一大事ゝ国家ゐゐさゝゐり後集ゝ
ゐまゝゐ雑家三月ゐゐ詩と文唐

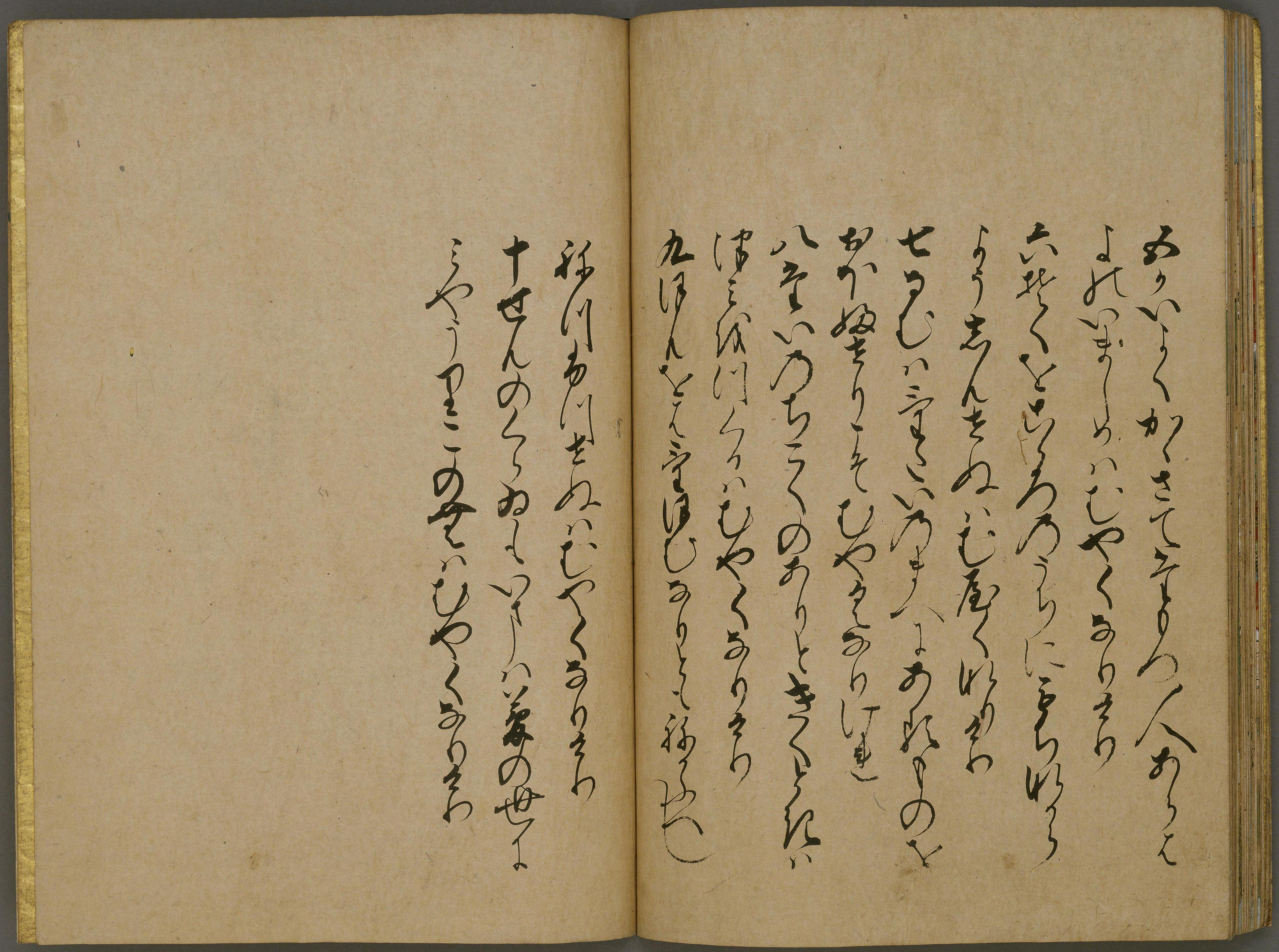
粘将軍様御屋敷へ高頭殿若侍攻参る
鎗ちんかてとうへいうようはらうもといく
こうさうはうめよう守り

てんじんき 下 03-036
国立国会図書館

十五益和哥

一ぢんしゅうまきゆくつさいくあること
十ぢんまそいむやくのりうり
二たくさんけりときくとれい
八まんさうしむ屋くたりうり
三ぢくうのさけとのあさいやりのこと
四ちうひしそむやくりうれ
五たいたくかりぬとそこうく時い
なりいきちんむ屋くりうり

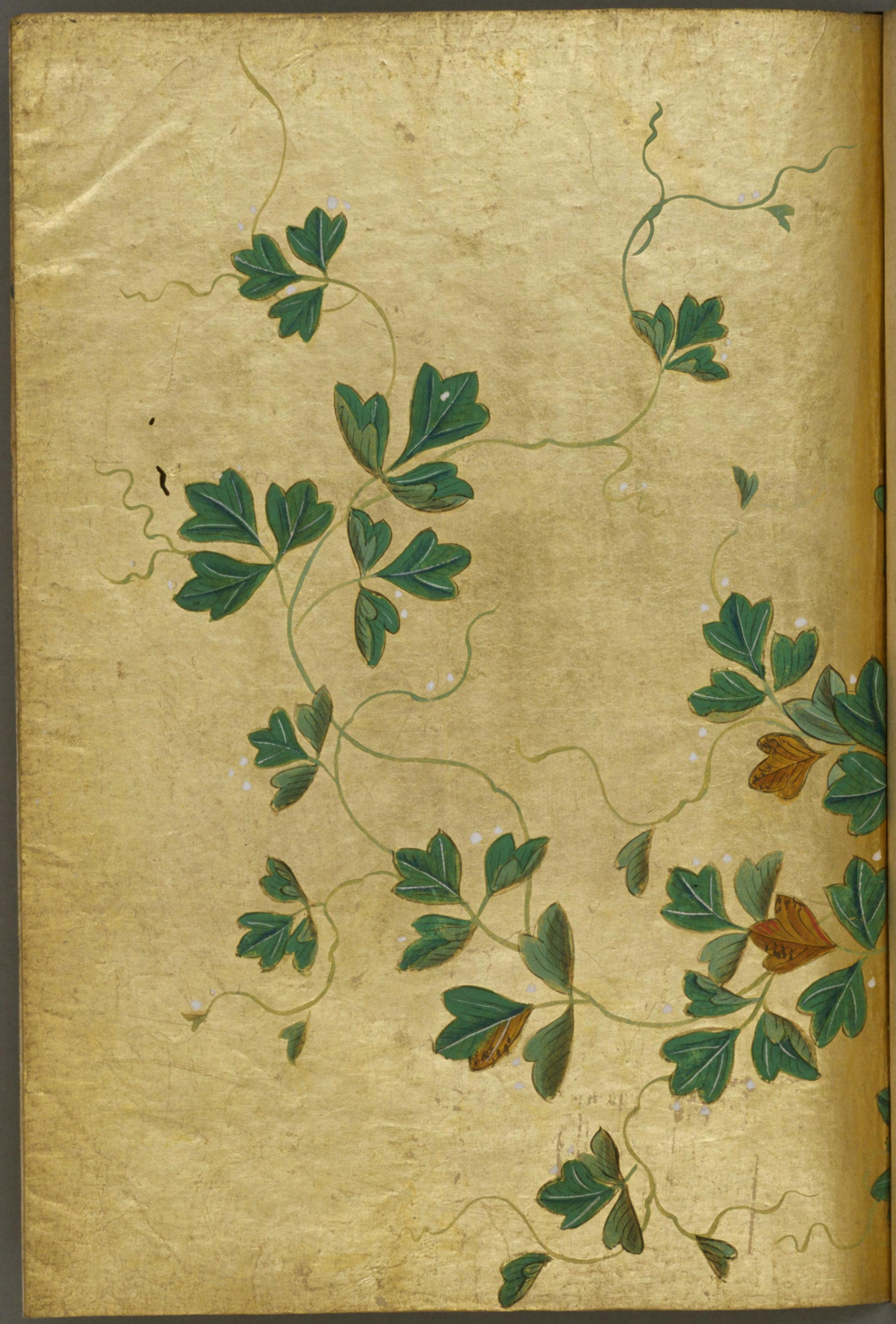
てんじんき　下　03-037
国立国会図書館



あらいとくかさてそもつ人あらと
よれいまもいむしやくあらそう
六ぜくとしろろうらに手ちはろう
ようきんきぬいむ屋くはりそう
七ちしい宗きいかまへよあれものと
おかはきりそれむしやくありけも
八ぜいのちろくのありときくとれい
はきんはいくろいむしやくありそう
九ほんとん宗はりそ移ろ

移りあいむしやくありそう
十せんのくろぬとつきい春の世よ
ようやうはこの春をいむしやくありそう

てんじんき 下 03-038
国立国会図書館



国立国会図書館

てんじんき　下　03-039

国立国会図書館

てんじんき　下　03-040
国立国会図書館